

平成 29 年 7 月 10 日

平成 28 年度学校関係者評価委員会報告

学校法人 平成医療学園  
横浜医療専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人 平成医療学園 横浜医療専門学校 学校関係者評価委員会は、自己評価委員会において作成された平成 28 年度自己評価報告書に基づき学校関係者評価を実施したので、以下の通り報告いたします。

記

1. 日 時 平成 29 年 6 月 23 日（日） 16：00～18：00
2. 場 所 横浜医療専門学校 6 階 会議室
3. 学校関係者評価委員会（敬称略）  
平沢 誠剛 （全国柔整鍼灸協同組合・総代、旗の台駅前整骨院・院長）  
渡部 典郎 （東京鍼灸マッサージ協同組合・専務理事、芝東洋院・院長）  
神谷 光徳 （宝塚医療大学・客員教授）  
加藤 教義 （誠治会【同窓会】・会長、さくら鍼灸整骨院・院長）
4. 事務局〈出席者〉  
吉田 重光 （横浜医療専門学校・校長）  
吉田 洪先 （横浜医療専門学校・統括長）  
岸野 佑宣 （横浜医療専門学校・副校長）  
赤池 誠司 （横浜医療専門学校・教務部長）  
正木 基之 （横浜医療専門学校・鍼灸師科・学科長）  
山下 昌一 （横浜医療専門学校・柔道整復師科・学科長）  
〈欠席者〉  
曾我部 貴仁（横浜医療専門学校 事務長）諸事情のため  
〈書 記〉  
横濱 隆信 （横浜医療専門学校・事務室）
5. 学校関係者評価委員による評価結果

## I 教育目標と本年度の重点目標の評価について

- 学校の教育理念・目標の②ホスピタリティー（思いやりの心）において、医療人としての使命感と社会に貢献できる力を身につけると共に、「患者の心に寄り添う!!」事ができる医療人を育成して欲しい。
- 優れた人間性を備えた新しい時代における業界のリーダーとなりうる人材の育成も然ることながら、柔道整復、鍼、きゅうにおける国家試験の合格基準を見据えた教育、高い国家試験合格率を目指して欲しい。
- 柔道整復師、鍼灸師の介護・福祉の分野における多様な実習先（臨地実習先）の確保に努めて頂きたい。また、卒業後の進路の多様性をアピールする事による在学生のモチベーションの維持や将来のイメージの拡大を引き続き行なって欲しい。

## II 各評価項目について

項目	評価
基準 1 教育理念・目的 ・育成人間像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの良い流れを引き継ぎ、後継者を自らの手で育てようという理念のもと、医療を通じての社会貢献を推進してもらいたい。また、社会的役割の意識を醸成する機会としてのボランティア活動も具体的な目的意識や活動目標を学生に明示し、積極的な学生参加を促して欲しい。</li> <li>○新たな分野で活躍する業界の専門家や専門的な知識を持つ講師を迎えて教育を行う取り組みは非常に良いと思う。更に教養科目を付け加える事ができれば、業界等のニーズに適合した人材を育成できるのではないか。</li> <li>○社会のニーズ等を踏まえた将来構想の下、専門分野の可能性を高める努力を実践していることはわかるが、課題と解決方向で述べている「詳細なヒアリング」とは誰からのヒアリングなのかわからない。生徒からの要望は聞いているのか？</li> </ul>
基準 2 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会等の設置により細部に渡りより良い教育の実践、組織運営が順調である事が窺え、異論はない。</li> <li>○更なる学生目線の運営を行うため、卒業後 1・3・5・10年と卒業生へのアンケートを行なってはどうか？社会に出て（卒業後）必要と感じた事柄を在校生に伝えることは学校運営に大きく寄与すると考える。</li> </ul>
基準 3 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施術法のブームに惑わされずに必要な技術・知識の取得は何か？の検討が大事である。</li> <li>○補習等の取り組みはスマートフォン等の IT 機器を用いた実施が有効ではないか。</li> <li>○医療系国家資格保有者として医療関係の広範囲な興味を育てる事も大事ではないか。</li> <li>○学校経営との兼ね合いもあるが、教員の十分な確保は大事なことと思う。</li> </ul>
基準 4 学習成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語の読解力の再検討も良いかと考える。</li> </ul>

<p>基準 5 学生支援</p>	<p>○学生支援の考え方は評価できる。特に経済的支援に於いては独自制度の導入・運営は高く評価できる。</p> <p>○就職等進路において、求人する企業等の希望内容の把握に努め、ミスマッチでの就職・進路決定を極力少なくすることが肝要である。また、企業データの蓄積も確実にいき、学生支援に役立てて欲しい。</p> <p>○礼節指導は大事であり、今後とも続けて欲しい。</p> <p>○当校だけでは知識が蓄積されていないと思うので、可能な範囲で公的な公開されている文章等を集めておくのも良いのかと。</p> <p>○躰における問題は小学校からかも知れない。</p> <p>○卒業生に対して SNS 等を用いた情報発信は有効かもしれない。</p> <p>○卒後の講習会を興味深いものにして欲しい。</p>
<p>基準 6 教育環境</p>	<p>○スマートフォン&amp;タブレットの有効的な活用を行なって欲しい。</p> <p>○学生の外部実習評価が高いことに好感が持てる。</p> <p>○地域の避難施設だけではなく避難者の支援も最終目標にしてはどうか。</p>
<p>基準 7 学生の募集と受入</p>	<p>○夜間部・社会人の志願者のニーズを調べ、時間割の検討を行ってはどうか。</p> <p>○入学者選考は点数だけではなく面接も重要かと考える。</p> <p>○学納金のわかり易い情報提供は良いことだと思う。</p>
<p>基準 8 財務</p>	<p>○平成医療学園グループ「宝塚医療大学」のホームページで学園全体の財務が公開されているが、財務状況は極めて健全であると思われる。</p> <p>○財務状況が明瞭であり透明性が高く、問題は見当たらない。</p>
<p>基準 9 法令等の遵守</p>	<p>○教育機関として様々な法令等についての情報収集を行い、内容を十分に理解した上で適切な運営を行っていくことが重要である。</p> <p>○法令遵守が当然のことであるとは言ってもないが、特に学生に対して遵法精神を醸成するための指導を引き続き行なって欲しい。</p> <p>○個人情報の保護については個人情報保護法の施行以来一層の厳格さが求められている中で担当者を専任し、厳格な管理を求める。</p> <p>○シラバス等の学生配布物において、内容の理解不足は学生にとっての不利益となる。十分な周知・説明を行なっていただきたい。</p>
<p>基準 10 社会貢献・地域貢献</p>	<p>○知識・技術・人間性において優れた平成の医療人を育て、社会に排出することで今後も教育機関としての責務を果たし、社会貢献の一端を担って欲しい。</p> <p>○地域のスポーツ活動を盛り上げる為はプロ・セミプロだけではなく地域のママさんチームや小・中学生のチームなどにも協力ができる体制を構築できれば更に良い貢献ができるのではないかと。</p> <p>○ボランティア活動における何気ない「気付き!!」が大事になるかと思えます。</p>

以上

### Ⅲ 学校関係者評価結果の活用状況

項目	評価結果の活用状況
基準 1 教育理念・目的 ・育成人間像	○平成 30 年度における教育カリキュラムの大幅な改定を好機と捉え、特に「職業教育」における教育内容の充実を図るために、WG（ワーキング・グループ）を設置して教育内容の向上に関する検討を開始している。 また、この作業の中で、教職員のみならず、在校生や卒業生（同窓会）にもアンケートを実施し、積極的に意見を取り入れる予定でいる。
基準 3 教育活動	○教育における IT 機器の使用については、ほぼすべての学生がスマートフォンを使用していることから、講義資料や過去の試験問題などを閲覧できる仕組みを構築したいと考えている。
基準 5 学生支援	○卒業生に対する情報発信や講演会・講習会の実施については、同窓会との連絡を密にして実施することで話し合いを進めている。
基準 7 学生の募集と 受入	○夜間部については、社会人からの要望が多いことから、平成 30 年度における教育カリキュラムの大幅な改定に合わせる形で、授業開始時間を 30 分遅らせて 18 時 30 分とすることにした。
基準 9 法令等の遵守	○個人情報の保護については、すでにインターネットに接続していない学生情報専用のパソコンを用いて厳格に管理しているが、作業途中の情報については教職員のパソコンを使用しているため、作業が終了した情報については速やかに専用パソコンに移し、教職員のパソコンにあるデータを完全に消去することを定期的実施させることにした。
基準 10 社会貢献 ・地域貢献	○オープンキャンパスにおける在校生スタッフの活動が安定的に実施できるようになってきたところであるので、今後は、その活動を地域のスポーツ活動に対する貢献や地域密着型のボランティア活動にも広げて生きたいと考えている。

以上